

2016年度 科学技術英語特論・演習の成績結果について

担当：小堀 聡

S (90-100)	2名
A (80-89)	7名
B (70-79)	2名
C (60-69)	0名
D (1-59)	1名
K (0)	0名
合計	12名

最高点：99点（1名）

最低点：11点（1名）

平均点：79点

コメント：

この科目では、英語について、読解だけでなく、聞き取り、読み上げ、英作文なども含めて、英語能力の総合的な向上を目指した。

初回では、ガイダンスと実力確認テストを行い、2回目からの9回では、発音・スピーキング・リスニング、文法の基本、科学技術英語の基本・語彙について講義した。さらに、11回目からの5回では、分野別の演習として、卒論要旨英訳および英語口頭発表を行った。

成績の評価は、平常点：20点、演習：40点、定期試験：40点により行った。

受講登録者12名のうち1名が不合格であり、合格者は90点台：2名、80点台：7名、70点台：2名、60点台：0名であった。なお、1名の不合格者は再履修者であり、2年連続してこの科目が不合格になるというのは、大変嘆かわしいことである。

一方、合格となった諸君も、80点以上（特に90点以上）の人数が少ないことから、あまり芳しい成績ではなかった。特に、後半の演習（卒論要旨英訳と英語発表）について取り組みが十分でなかった人がいたこと、また、定期試験も個々の問題については不十分な解答が多く見られたことを考えるならば、まだまだ科学技術英語についての努力を続ける必要があることは明らかだと思う。

英語は、大学院での研究を進めるうえで必須であるだけでなく、修士課程を修了した者として、当然身につけておくべきスキルであるので、引き続き、英語学習にも真摯に取り組むようにしてほしい。

以上